

2014年度第4回 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録（確定稿）

- 開催日時：2014年11月11日（火）18時30分～20時30分
- 開催場所：田無総合福祉センター 第3会議室（4階）
- 出席委員：五十嵐委員長、小嶋委員、松尾委員（以上、3名）
- 出席職員：栗山局長、丸木地域福祉課長、妻屋ボランティア・市民活動センター係主査、中澤主事、利光主事、長山コーディネーター、渡辺災害ボランティア担当

【配布資料】

- 1：西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告（2014年9～10月）
 - 2：コーディネート状況等月次報告（2014年9～10月）
 - 3：ボランティアコーディネート実績（2014年9～10月）
 - 4：災害ボランティア養成講習会報告
 - 5：2014年度西東京ボランティア・市民活動センター予定表（11～12月）
 - 6：2014年度第3回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議＜未定稿＞
 - 7：2015年度西東京ボランティア・市民活動センター事業 主な変更点
 - 8：2015年度西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会 運営委員名簿
 - 9：西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会設置規則
- 別冊 2014年度第2回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録＜確定稿＞

- 委員長より開会のあいさつの後、会議の成立について確認がある。2回続いて3名の出席は大きな問題と捉える。
- 会議は過半数の参加により成り立つので、3名では議決行為は成り立たない。したがって、事業の報告等でご意見をいただく場として開催した。

1. 報告事項

(1). 西東京ボランティア・市民活動センター業務報告（2014年9月・10月）について

- 事務局より資料1～5に基づき、2014年9月・10月の業務について報告を行う。
- 以下、質疑、協議が行われる。
- 委員長：災害ボランティア養成講習会の参加者は22名と報告があったが、参加者の所属は。また、今後の修了者の活動は。
- 事務局：参加者のうち、ふれまち・ほっとネットなど社会福祉協議会の事業に関わりのない方が8名含まれていた。今後は修了者の組織化を図っていくこととなる。
- 委員：コーディネート実績には災害ボランティアの記録がないが、西東京での取り組みは。
- 事務局：災害ボランティア養成の取り組みは今年度からで、まだ実績はない。組織化後には来年度の養成講習会の企画段階からかかわってもらいたいと考えている。今年の冬のような大雪などがあったときには、修了者たちに声を掛け、必要な支援に協力を求めたい。
- 委員：平常時からの活動を考えると行政を含めた動きを確認しておく必要があると思うが。

事務局：災害時要援護者の支援について、行政と社協で協定を結び支援を行うことが予測されている。この場面にも修了者の活躍が期待されている。

委員長：コーディネートの報告があるが、その内容から見える傾向について教えてもらいたい。

事務局：最近は、精神障がいの方、視覚障がいの方、高齢者の方などからの依頼が多くなっていると感じている。以前は保育のニーズが高かった。北多摩北部ブロックボランティア担当者会議の中で、精神を患った方のボランティア活動ニーズに対する受け皿の少なさが話題に挙がっていた。

委員：精神障がいの方がボランティア活動を希望された際、活動の受け皿はあるのか。

事務局：精神障がいの方々の就労の場として、市内に作業所等がある。ボランティア活動の受け皿となっていていただくためには受入施設の理解と支援が求められる。また、今後は生活困窮者の支援でも同様の対応が想定されている。

委員長：稲城市ではボランティアのポイント制度を実施している。手帳を渡し、活動を通じてポイントを付与、ポイントを介護保険料の支払に当てている。西東京ではポイント制は動いているのか。

事務局：まだ進んではいない。

2. 審議事項

(1). 2014年度第3回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録（未定稿）の確認

●前回運営委員会の記録について確認を行う。本日は出席委員が少ないので、本日の状況報告を行った上で各委員からの確認を行うこととする。

3. 協議事項

(1). 2015年度事業について

○資料7 2015年度事業計画・予算（案）について事務局より報告を行う。

委員長：予算（案）の中でコーディネートシステムに大きなお金が割かれているが、このシステム導入の主旨は。

事務局：日々のコーディネートについては、コーディネーターの経験や記憶に頼っているところが大きい。現在もシステムは導入しているが、コーディネート履歴が蓄積されない状況にあるので、システムを導入し履歴を蓄積させ、次のコーディネートに活かしたい。

委員：ミニ講座を新しく取り組むことはとても良い。リタイア後に地域でつながるためにはボランティア活動を始めるきっかけが必要だと思っている。このような講座の開催は意味がある。

委員：田無総合福祉センター1階にある活動室は、毎日午後の時間帯がオープンスペースになっている。たくさんのボランティアが気軽に足を運べるような場所にできないか。団体のロッカーの場所等、室内の配置や整備に予算を掛けることができないか。「ボランティアセンターに来れば、ボランティアが集まっている」というような場になってもらいたい。

事務局：リタイアのタイミングで地域につながらなければ、きっかけを失ってしまう。その意味でも、ハードルの低い講座を開き、ボランティア・市民活動センターに足を運んでもらうための企画である。

委員長：新規事業に取り組むのであれば、もっとしっかり予算を積み上げる必要があるのではないかと。
また、ミニ講座や多様性の理解は、2事業をまとめて提案するのではなく、それぞれに1事業ずつ示してもらいたい。

事務局：心強い指摘をいただきありがたい。新規事業の広報費を見直し、再検討したい。また、ふれあいのまちづくり事業では12月5日より住民同士の助け合い活動「ふれまち助け合い活動」が地域を限定して試行される。

委員：小地域でボランティアコーディネートを行うようになると、今後ボランティア・市民活動センターに求められる役割はどうなるのか。

委員：小地域においてこのような活動がうまくいけば、横の広がりがうまれると思う。1ヶ所で成功すれば、全市展開につながると思う。

委員：このような活動は、ボランティアセンター事業でも有償家事援助事業でも同じような広がりがうまれてくると思う。1ヶ所で成功すれば、全市展開につながると思う。

委員：他団体を巻き込んで広報していくことが重要である。

委員長：最近、買い物難民について考える機会があった。高齢者等にとって買い物は、物を購入する行為にとどまらず社会性が伴う行為でとても重要である。地域の中で様々に支援が展開されることは重要である。

委員長：今まで取り組んできた事業にとらわれると、変わることができなくなるが、ニーズが変化していく中で、上手に変わることも必要といえる。

4. その他

(1) 次回運営委員会開催日程について

委員長：2回続いて3名のみのお出席は大きな問題。通知を送付後、出欠が確認される中で、本日の運営委員会を開催しないと判断するのも1つの方法。また、集まらないのであれば集める方法を考える必要もある。過半数が集まらなると開催もできない規定にもなっているが。

事務局：ボランティア・市民活動センターの事業に関して、職員だけで考えるのではなく、活動している方々の意見をいただきながら事業展開していきたいと考えている。確かに規則には過半数の委員が集まらなると会議を開催できないとあるが、様々な意見をいただく場をつくり、事業に反映させていきたいと考えている。来年3月で任期が満了するので、委員の選出についても、ここで話し合っていたきたいと考える。

委員：どちらにしても、3名での開催が続いているのは仕方ない。皆さんが多忙で参加が難しいのか、優先順位を確認させてもらいたい。多くの方が参加してもらえよう、事務局にもフォローしてもらいたい。

委員：1月の運営委員会は予定どおり開催することを伝え、早期に確認を取ることが必要。

委員長：協議内容も明確に示してもらいたい。何を協議するのかをわかりやすく示すことができれば、各委員のモチベーションも変わってくる。また、毎年1月開催の時には懇親会を設定している。顔が見える関係性の中で意見交換を行いたい。

●以下の内容を確認した。

- 1月の定期開催について、1月13日(火)を第一候補日、1月19日(月)を第二候補日として各委員の都合を事務局から連絡取る。

- 開催日時：1月13日（火）18時00分より（19：30終了予定）
- 開催場所：田無総合福祉センター第3会議室（4階）
- 懇親会：運営委員会終了後懇親会を設定する。
- 以上をもって、2014年度第4回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会を終了し、閉会した。